

鶴岡市郷土資料館あり方検討会 第1回議事概要

1 会議概要

- (1) 日 時：令和7年6月25日（水）午後3時～午後5時30分
- (2) 場 所：鶴岡市立図書館 講座室
- (3) 出席者：略

2 会議次第

- (1) 開会
- (2) 挨拶 教育長

3 講話

「郷土資料・地域資料の保存と活用について～」

元小平市中央図書館館長・蛭田廣一氏

4 説明

(15:50)

「これまでの経過と鶴岡市郷土資料館の現状について」

郷土資料館職員

5 意見交換

(座長)

印象的な事例を1つ紹介したい。現在は伝承施設として震災の写真や遺構などを展示しているリアス・アーク美術館は、東日本大震災が起こる前に地震に関する展示を行っていた。しかし、その展示にはほとんどの方が来館しなかった。今はメモリアル施設となり国もお金を出して、多くの観光客も行くようになったが、せっかく資料を持っていても活用されず、教訓とならなかった。

私は歴史資料の課題はそこにあると思う。保存をして、さらに提供していかなくてはならない。決して昔のことだけではなく、これからのことを歴史的な資料・現在の資料も含めて、随時提供して、未来に向かって備えていかなければならない。歴史の研究者は当然いなければならないが、それプラス活用し、子どもたちや住人にも提供していく意味があると思っている。

鶴岡市の課題というわけではないが、全国的に見て図書館と郷土資料館を差別化させるか、或いは同居させていくべきかというのはいつも議題に上がる。様々な自治体でこれらを同居させるか或いは別に建てるか、組織をどうするかという議論は上がっており、これについて考えなければならず、こちらに関してメリット・デメリットを整理しておく必要がある。

パターンは3つに分けられる。①建物と組織どちらも分かれているもの、②建物は同じだが組織が別々なもの（鶴岡市はこれに該当する）、③図書館の中に組織上も内包さ

れているものに分けられる。それぞれ、いいか悪いかはその土地の環境や歴史を踏まえて考える必要がある。しかし、メリット・デメリットははっきりと分かれる。

まずは、完全に組織が分かれているパターン（例えば郷土資料館は市長部局、図書館は教育委員会）は、完全に図書館と違う人を置いた場合、人材の専門性が確保しやすくなるというメリットがある。デメリットは人件費が倍かかることと、資料の線引きが非常に難しいこと。次に、建物を一緒にすることについては、メリットは利用率が高くなること、立体利用（地域の現代的な資料を見つつ、古文書などの歴史資料を見ること）などができること。それから、建物を別々にした場合のメリットは、スペースが確保しやすくなること、保存しやすくなること。

ここの郷土資料館の利用率を見るとここ数年 2000 人を超えており、これはとても多い。なぜ多いかという点と図書館といっしょにあるから。子どもたちにも今後利用してもらうことを考えると、資料館を別々にした場合そこにわざわざ行かなければならない、日常的な利用はほぼなくなると考えたほうが良い。活用面でどう考えるかと専門性をどう捉えるかは少し違う視点になってしまう。どちらがいいのかは選択の問題になるので考えていただければと思う。

ここまでの私の発言に引っ張られる必要は全くなく、皆さんが自由に発言してほしい。最初に郷土資料館運営委員の方から 1 人ずつお話をいただきたい。昨年度の郷土資料館運営委員会の中でも図書館と郷土資料館の関係について議論があったと思うので、それも踏まえてご意見をいただきたい。

（委員）

出羽三山歴史博物館では出羽三山の歴史関係の資料の中に修験道の資料が膨大にある。今回は明治以降のものを出版したが、すべてを資料の中から逐次拾いながらの作業だった。その際宮司からは 1 つの資料の中に様々なものが入っており、日誌などもある。それを明確に何ページからどのような内容が書かれているかを細目で見せるようにしなければ、一般の方の資料の活用ができないと言われた。蛭田先生のお話の中の内容細目、活用するための資料というのが非常に勉強になった。

図書館と資料館は一体化していた方が良く考える。一般の人にとって資料館というのは専門家が入るような場所であるという思い込みがある。一般の人が改めて資料館に入るとするのはハードルが高い。現在の 1 階の図書館を使用して、わからないことがあったら 2 階で聞いて調べてほしいなどができるので、現段階の鶴岡市においては一体化することで少しずつ資料館というものを身近なものにしていくことの方が重要であると考え。スペースや専門性もさることながら、一体化することによって一市民にとって身近なものであってほしいと考える。

(委員)

実際に資料館で持っている様々な情報がどのように活用されるかを考えたときに、例えば鶴岡は藩主が動かなかつたので古文書類が豊富に残っており、研究者にとっても便利な場所である。また食文化や羽黒山、黒川能の記録も残っている。そのような面でこれから観光資源として生かされており、経済的な面だけでなく地域文化への誇りがあれば子どもたちも地元に残ってくれる可能性もあるため、地域教育にも活用していくことが良い。市の観光課や教育委員会などは様々な分野で資料館が持っているデータを活用してほしいという気持ちはある。

しかし、現在は行政の縦割りではないが、それぞれがバラバラになって事業を展開している。歴史関係では、致道博物館と郷土資料館が同じテーマで展示などを行っている。地域や市内を挙げて1つのテーマに取り組むと色々なことができる可能性があるが、それをバラバラにしているのが今の行政の現状である。

これを踏まえると新しい図書館では、文化センターのようにしてみんなが集まり自由に新しい事業を考えたり、同じテーマで研修会を開いたりなど地域行政と資料を管理している我々との間でつながりを持ち何か大きなことができないかと考えることがこれからの課題だと考える。

また最近博物館では考古学資料の修復をしている作業室をガラス張りにして作業風景が見せるというところが多い。それを踏まえて、常設でなくても古文書をどのように扱っているか、一般の人が覗けるようにするという楽しみ方もあると思うので、施設の構造に関しても新しいアイデアをぜひ盛り込んでいただきたい。

最後に、以前、スロベニアの国立公文書館が移転するところに居合わせたことがある。旧ユーゴスラビア時代には自分の国がどのような変遷をたどってきたかということが軽視されていたが、国が分割したことで、郷土史研究を急に進める必要があり、古文書を大量に整理する必要が出てきた。また、図書館が大洪水に見舞われて、資料が大損害を受けたという場面を実際に見てきた。図書館という公共施設が被害を受けづらい構造にすることや、社会の変動に対しても対応できるように大量の資料を保管できるだけのスペースを設けることが必要になってくると考える。上記のことを念頭に置いて考える必要がある時代になっていくと感じた。

(委員)

一部の新聞などはデータ化されているものはあるが、小平市の場合、すべての新聞をチェックして使えそうな記事を取り上げているので、内容細目がわかればすぐに欲しい記事にたどり着くことができる。将来的にそういう風になるといいと思う。鶴岡は第二次世界大戦で大きな戦災は起きなかつたため、これからも古文書類は多く出てくると思われる。それを見越した上での収蔵庫を作っていただけるとありがたい。

私は加茂地域に関わっているが、10年前は地元の人には加茂地域と北前船に関係があ

と思っていた人はほとんどいなかった。この資料館に所蔵されている史料をお借りして加茂地域の人に見せたことで、地元に対して関心が高まっていった。地域の人に伝わっていなかったことが、実際の史料を見ることによって地元の方々の目が開き、地域づくりにも繋がっていった。これらを踏まえた上で、郷土資料館の意義というのは、地域で埋もれている文書を収蔵し活かしていく。一般の人でも実際に見て、詳しくはわからなくても肌で感じるものがあると考え。「気づき」、「知る」ことを大事にしていく資料館になれば良いと考える。

鶴岡の場合は併設型でこれまで運営してきており、その良さを非常に感じている。わざわざ資料館に行かなくても、1階で一般図書を見ながら、2階で地域資料や目録を調べ、こんな資料があるなら別の資料も見ようという良さがあるので、今後も生かしてほしい。

講座室や会議室があることも魅力の1つである。現在の講座室ぐらいのスペースは必要だと思う。また、従来、市史編纂の事務室は2階の郷土資料館の事務室と兼ねているが、職員数が増えたため、現在は打ち合わせなどでは利用できない状況である。市史編纂委員が集まり、相談ができるスペースも必要だと考える。今後は、一番身近に資料館の所蔵史料を見ている市史編纂委員として、情報発信に協力することも非常に重要であると思われる。

ところで、3年ほど前に教育委員会で子供向けの北前船の講座を行った際、船手形を模した名札を作っていたが、それは資料館に所蔵されている実物ではなく他の地域のものを使用していた。資料館に地元のもので所蔵されているのに、それを使わないのはもったいないと思う。このような企画をするときにも、自由に相談できるような文化センターのような役割を担っていける資料館になると良いと思う。

(委員)

致道博物館と郷土資料館の連携については強く進めている。

これからの地域社会は活力がなくなってきて多くの家、特に旧家が潰れていくと思われる。今野さんや私たち博物館の学芸員が相談を受けて、実際にそこに行くと、もうだれも住んでいないが資料だけが残されており、「何とかしてもらいたい」と依頼されるケースがある。現在は、資料収集をどうするか、収集した資料をどう活用するかを考えるのがという時代だが、昔は資料が焼却処分されてしまう前にとにかく集めて、その先はあまり考えないという考え方だった。しかし、後の時代になって研究者が調査しに来て、「なぜこんな1級資料がこんなところにあるんだ」というようなことが起こりうる。資料一つ一つが、どれほど使える資料かというのは、はじめはわからないが、寄贈・寄託問わず、とりあえず収集して、整理をしていくにつれてわかっていくものがある。それ以降のことは、その時その時の人が考えていくのだと思う。

今後も例えばいろんな研究者の方が来て、郷土資料館や博物館が情報提供をしていく。

さらに、様々な人が来て資料の調査をしていく中で、歴史を変える発見やいろんな情報が出てくるのだと思う。将来、資料をどう利用するかについては、その時の人たちがどう考えるかだと思う。

最後に、図書館と郷土資料館については、一体化したほうが良いと考える。利用者が一般図書からもっと専門的なものをといるときに、例えば「離れたところにあります」といわれるよりも、「2階に上がってみてください」や「隣のブースにあります」といわれる方がずっと利用しやすい。

(委員)

蛭田先生の講話で感じたことを申し上げますと、大変な作業をやってらっしゃると感じた。作家の三浦しをん氏に『舟を編む』という小説があるが、資料をデジタルデータ化するというのは、まさに本を編集すると同じである。鶴岡市出身では相良守峯が『大独和辞典』を作ったが、相良も大変な作業であったと聞いている。

ところで確認したいが、このたび「郷土資料館あり方検討会」ということで参加依頼がきたが、これは郷土資料館運営委員会があった上で、図書館と一体化するかどうかを協議する場なのか。この会議の意図するところはどのようなところなのか。私自身としては一体化という方向で進めてもらいたいと思っているが、今回は図書館と郷土資料館を一体化するべきかどうかという点について我々の意見を求めたいという意図だったのか、教えていただきたい。

(図書館長)

これから新たな図書館を作っていくときに、郷土資料館は一体化するかどうかというところも大きな課題の一つである。それを含めてこれから郷土資料館のあり方、新しい図書館に向かうときに郷土資料はどうするのか、そういったところについて話し合いたい、そのためには全国のご見識をお持ちの先生方のお力も借りたい。また、現在大変お世話になっている郷土資料館の運営委員会の先生方にお力添えをいただいております。聞かなければ進まない話であると考えている。

このような経緯があったところで、このたび1回目の会議を開くにあたって、運営委員の皆様にお集まりいただいた。

(委員)

私個人としては、一体化すべきだと考える。デジタル時代で、この職員体制を見ればわかるように、明らかにマンパワー不足だと思う。鶴岡にある膨大な資料と比較すると、この人数では貧弱であると思う。

ただ、市としての予算等色々絡んでくるとは思うが、デジタル化するにはたくさんマンパワーが必要だと思う。そこはすぐに解決していかなければならないと思う。

(座長)

委員の方々がおっしゃることは尤もだと思ふことがほとんどであった。

この検討会というのは建物に限らず、これから資料をどのように扱っていくか、活用していくかということも含めて皆さんから意見をいただく場だと思う。冒頭で私が建物や組織の話をしたのでそれに引っ張られてしまったが、ここで結論を出すことはなく、様々な立場から資料についての思いであったり、活用の仕方であったりを出していただいて、それを新しい施設に活かしていくという趣旨となる。

内容細目については図書館では目次を指すことが多いが、歴史資料では解題も含まれてくる。これがないとなかなか使われない。子どもたちへの活用ということは現在、大命題になっている。特に小中高生は歴史資料に触れる機会がない。しかし、国はそういうことをやれと言っている。反面、費用がない。国がお金を出していないことが大問題である。全国的なものたくさんあるが、地域のものがない。

この館の保存スペースに関して、現状は見ていただいた通りでよくお分かりだと思うが、ひどすぎる。これは本当に何とかしなければ、このままでは大変なことになる。人・繋がりの問題も全国的な課題になっている。

嶋田学氏の「公共図書館における地域資料に関わるサービスの意義と今後の方向性について—瀬戸内市立図書館での実践事例をもとに—」という論稿では、「古文書の整理に住民を活用」、「小平での定点撮影」、「市史編さんと大学連携および市民協働による町並み模型の制作」という3つの事例が書いてある。保存や整理については書かれていないが、活用方法について彼なりの視点で書かれている。これは非常に現代的な考え方と思う。

先ほど委員の方がおっしゃった通り、昔は集めることで精いっぱい、保存することも大変だった。今は時代が変わってより、地域資料が貴重な存在になっているし、それを後世に伝えていく義務が我々にはある。

図書館でも100年程経つと当時はあまり役に立たなかった週刊誌が今は貴重になっている。どのような資料でも価値は歴史とともに変わっていく。浮世絵など巷に100円ぐらいで売られていたものが今は貴重資料になっている。これを踏まえると、どの資料に価値があるかというのは「わからない」というのは素直な考え方である。

(委員)

今日は色々な方のご意見をお伺いしてとてもいい経験ができたと感謝している。図書館を隅々まで見て、どのような資料が集まっているのかというのがよく分かった。この膨大な資料を今後どうしていくのか、課題はたくさんありそうであるというのが第一回目の感想。

資料保存に関わってきた立場から言えば、保存環境は劣悪。空調も効いていない。せっかく貴重な資料があるのにこれほど暑い環境に置かれていると来どうなっていくの

か心配になる。

ただ、資料が段ボールの箱に入っていることは、すごく大事なことである。資料保存委員会で最初に出したのが、「容器に入れる」という本だった（『容器に入れる一紙資料のための保存技術』相沢元子ほか著）。箱に入れておくことによって資料が保存される。全国的には、むき出しで古文書が置いてある保存機関がまだまだたくさんある。温湿度が高く、変化する日本において、外気に直接触れることは資料の一番の劣化要因になる。容器に入れるだけでもだいぶ違うため、箱に入れて管理をしていることは感心した。

ただ、まだ課題はあると思われる。例えば、図書館の地域資料について歴史系はかなり充実しているが、行政資料がどの程度入っているのかが良く見えなかった。研究者は古い歴史資料を大事にするが、今を生きる市民の人たちは、行政は何をしてくれるのか、どのような事業を行っているのかを知りたいと思う。それを物語るのが行政資料である。行政事務を担う各課で行政資料を作成しているが、それらが十分に集まり、使えるような環境ができて初めて、住民は選挙で判断するための情報を得られるし、行政においても他の自治体と比較して的確な提言や指摘をすることができる。図書館や郷土資料館は今を生きる人たちを支援するため、行政資料に十分目配りをして集めていかなければならないと思う。

（委員）

私は酒田市の公文書等管理委員会の委員をしているが、酒田市では市の各行政課が作成した公文書の中で重要なものや貴重なものについては、特定歴史公文書という形で市長部局に移して永年保存ということになっている。その際、どれを特定歴史公文書にするか判断するのが公文書等管理委員会であるが、そこで毎回問題になるのが、市広報を作成するときに撮影した写真は公文書となるかとか、また、小中学校などで作成した生徒の指導書や学籍簿は5年や10年で廃棄しなければならないと法律上定められているが、「明治時代からのものがずっと倉庫に残っているから、特定歴史公文書として引き取ってほしい」という話が出た時などは、判断が非常に難しい。研究者の立場からいえば、法律上アウトなのかもしれないが、教育史を研究するときに重要な資料になるので残した方が良いのではないかと思う。しかし、学校教育法や様々な規定からすれば、個人情報であるし、そもそも廃棄しなければならないものを残していいのかとか、それは市の公文書なのかなど色々問題が生じて判断が非常に難しい。

酒田市では、鶴岡市の郷土資料館で集めている地域資料・郷土資料については光丘文庫が所蔵していることもあり、古い歴史資料かつ行政が関連する資料だと収蔵するのは光丘文庫か市長部局かで問題になる。それを踏まえると、鶴岡市の郷土資料館は現状ひとまとめで引き受けていることになるので、非常にシームレスであり、メリットとして大きいと思われる。

また、閲覧者・利用者についても、特定歴史公文書だと市役所の部局に申請をしなけ

ればならない。年間 30 件ぐらいである。郷土資料館の閲覧者・利用者は桁が違う。利用の便ということを考えても、市民の方が足を運びやすい、図書館と同じ建物の中にある、手続き上もあまり分断されずに利用できる。研究者だけでなく一般の方が利用してもらいたいということを前提に置くのであれば、非常に大きな利点になると考える。

研究者は、申請の必要があることはわかっているしもう慣れているが、一般の方が閲覧をしたいということになった場合、「この書類を書いてください」や「こちらの窓口へ持ってきてください」ということは、非常にハードルが高い。現状の図書館と事実上一体化しているものであれば、郷土資料・地域資料の施設という点では非常に利便性の高いものになるのではないかと思う。

書庫の問題では、図書館自体蔵書数が多い上に、鶴岡の場合は郷土資料・地域資料の点数も非常に多い。同じ書庫で管理をする場合、場所の取り合いになってしまうので、うまく棲み分けをするか、書庫を別に作って、温湿度管理ができるようにするなどの配慮が加えられるのであれば、運営形態としては従来通りの一体型がよろしいと考える。

(委員)

山形大学に来る前は市立米沢図書館で開館から郷土資料担当として司書をしていた。鶴岡も米沢も藩校があった町であり、鶴岡市立図書館では致道館の蔵書が受け継がれていて、近代のアーカイブ機能を図書館で受け継いできた歴史はとても大事にしていると思うし、今後のそのような機能を有してほしい。

米沢図書館ではレファレンスカウンターを設けたことによって、市民の方が郷土資料の相談を気軽にできるようにした。例えば若い夫婦が「この場所に家を建てるから、この土地は昔どうだったのか」と相談に来るなど、歴史の専門家だけでなく地域の資料を身近に感じてもらう機会を創出している。また、米沢図書館では階段に展示スペースを設けており、市民の方が通りすがりに地域資料・歴史資料があることをアピールしている。それにより、子どもたちや後世に「大事な資料がある」、「貴重な資料がある」、「守っていかなければいけない資料がある」ということをアピールしている。

デジタルアーカイブについて、研究者としては県外市外の人たちに向けて公開していくことは良いことだと思う。しかし、市民の方向けの図書館を目指すのであれば、展示スペースを図書館にも設けることによって、残さなければならない資料があることを子どもたちに意識してもらおうきっかけになると思う。

家じまいや墓じまいをする方が米沢も多いが、図書館は古文書や古い資料を救う存在であってほしいと思うので、十分な収蔵庫を作り、保存環境も良くしてもらったら、今後の郷土資料も残っていきやすいのではないかと思う。

図書館と郷土資料館で質問コーナーを設けるなどの取り組みを行うと、市民の方にも開かれた図書館になると思う。

(委員)

小平市の図書分類はすごくうまい書き方をしていると感じた。パスファインダーで、一般の方たちが簡単に資料にたどり着くことができる構築をしている。これは郷土資料館も含めて今後参考にすべきところだと思う。

郷土資料館は大正8年の荘内史編纂会時代から継続して資料の収集・整理を行っているように、古文書が膨大にあることが強みである。根本史料が所蔵され、郷土資料館があることにより、毎年全国からいろんな研究者が集まり、研究の場になっているのは、全国に誇れる状況である。藤沢周平が小説を書けたのも郷土資料館に資料が残っていたからという面もある。根本史料を引き続き守っていく機能は、今までと変わらない形で継続していく必要があると思う。

しかし、一般の方たちの興味を得る努力は必要になってくると思う。今後新しい図書館を立てていく時に、展示という部分において一般の方の興味を得る上では必要になってくると思うが、必ずしも大きい展示をする必要はないと思われる。周辺に建てるのであれば官民連携を行い、鶴岡市から致道博物館を頼ってもらうことも必要になると思う。

郷土資料館に期待することとして、一番はレファレンス機能を充実していくことが重要であると考えます。致道博物館では人がいないことと仕事上一般の方たちの質問に答えられないところが多分にある。郷土資料館の方でも何とかやってきているとは思いますが、それらに答えられるだけの人が必要になってくると思う。

小平市のパスファインダーに関連して、一般の方たちが資料に行きつくまでのシステム構築もこれから絶対必要になってくると思う。

小平市で最初に図書館にパソコンを導入したとあったが、それと同じように例えば、鶴岡市でAIなどの最新の科学技術を取り入れることになれば、ソフト面においてかなり全国に誇れるような形になるのではないかと思う。

(座長)

私はそれらを約20年前に日本で初めて始めた1人であるが、最近では、AIやデジタルアーカイブなども導入するのにあまりお金・手間がかからなくなっている。補助金も出る。AIやVRなども広く活用されるようになった。今はただ画像を見るだけでなく、より多くの方に体験してもらう形に移行している。新しい施設を作るまで数年かかると思う。その頃にはもっと技術が進歩している。先を見て、考えてほしい。

郷土資料館運営委員とあり方検討会委員の皆さんからの意見はすべて納得できる意見であったと考えている。

これから3回、あり方検討会は実施されるので、今日はまとめる必要はないかもしれない。一体型を望むけれども、スペースや保存機能、人などいろんなものが足りていない。また、データも作らなければいけない。いろんなことの要素が欠けていることは間違いないことを受けとめてほしい。